

残暑お見舞いの葉書づくり

パソコンの AI 技術が進化して、文章生成 AI や画像生成 AI が、どんどん取り入れられています。Windows の Copilot に「残暑お見舞いの文章を書いてください」と入力すると、なかなか気の利いた文章が作られます。しかし、それは頭と結びの言葉だけです。自分の日常生活に合ったものは出来ません。それを書いてもらうように問答を繰り返せば、少しはまともなものになります。しかし、多くの場合、見当違いの回答が出てきて、私は気に入りません。不特定多数を相手にする行政や企業では定型文で総会の案内をつくったり、新製品の発売案内文など AI を使って、事務要員を削減でき、決められた条件の中で、誤りを防ぐこともできる文章ができるのでしょうか。

私は、自分の言葉で、自分の発想で、残暑お見舞いの葉書を書いてみました。

Cnet の「パソコンを楽しむ会」で、暑中お見舞いのはがき作成の講座が、6 月に開催されて受講しました。Office の Word を使いクラゲを幻想的に表現して、海水に水泡がたどよう絵葉書が出来て、短い文章を書き込んで出来上がりです。

私は、この講座のテキストから、幻想的なクラゲを、夏の夜空に北斗七星とカシオペア座が輝く中に浮かべて、海中に浮遊していく絵にしました。クラゲの絵を、Word の図形の「円」を挿入して、図形の編集機能でクラゲの頭になるよう変形します。クラゲの足は、Word の図形「星とりボン」を使って作ります。そして色合いにグラデーションをかけて浮遊するクラゲのイメージをつくりまします。一本つくれば、これをいくつかコピーして、さらに変形して異なった形の足ができます。これを組み合わせると、まるで海水のなかで泳ぐクラゲのようになります。

夜空の星と海水の泡は、Word の図形「楕円」から丸い図形にして挿入します。サイズは 2mm とか 7mm とか大きさを指定します。塗りつぶしの色を「黄色」や「白」にして、図形の効果で「光彩」を選び、光彩の色や大きさも設定できます。出来上がった絵に、残暑お見舞いの文章を入れて完成です。文章もフォントの形式やサイズを選んで、葉書の中にうまく収まるように設定します。

